『立っちできたよ』　0歳児　6月

エピソード

　ハイハイやつかまり立ちで移動していたA児(１１ ヶ月)が、一人で立てるようになってきました。この日、室内で箱の中に入って遊んでいたA児は、手で箱の両端を支えにしてゆっくりと体を起して立ち上がろうとしていました。側にいた保育者と目が合うと、A児は保育者の方を見てニヤリと笑いながらゆっくりと立ち上がり、箱から手を離すと保育者の方を見て、嬉しそうに笑って手を叩きました。保育者が「A ちゃん、立てたね!」と言い、手を叩いて喜ぶと、A児はさらに嬉しそうに手を叩きました。そして、ゆっくり座ったかと思うと、またニヤッと笑いながらゆっくりと立ち上がり、保育者の方を見て嬉しそうに笑い、手を叩いていました。保育者も同じように一緒に手を叩いて喜ぶと、A児は再び座っては立ち、を何回も何回も繰り返し、立ち上がるたびに保育者の方を見ながら手を叩いて喜んでいました。

　その様子を側で見ていた B 児(１２ ヶ月)も一緒に嬉しそうに手を叩いていました。周りの皆に手を叩いてもらい、A児はとても嬉しそうに笑っていました。

保育者の思い

・箱の中に足をあげて入ったり出たりする動作を通して、遊びながら体幹を育てたいという思いから保育室に箱を置いて遊べるようにしました。
・A児が嬉しそうに立って手を叩いて喜んでいる姿がとてもかわいらしく、保育者も嬉しくなって一緒に一緒に手を叩いて A 児の気持ちに共感しました。
・大人が楽しんでいる姿を見せることで他の子どもも周りへの興味が生まれ、人と関わる楽しさを感じられたらいいなと思いました。

子どもの育ちや学び

・箱の中の狭い空間に入ることで包まれるような感覚になって安心できたり、箱から出たり入ったりすることで、物との距離感（空間認知）やバランス感覚が育ちます。
・自分で立ち上がる事が出来た喜びを保育者に共感してもらうことで、安心感や満足感などの気持ちが満たされ、もう一度立ってみようという意欲につながります。
・周りの大人や友達の楽しそうにしている姿を見て、『真似したい』『自分も一緒にしたい』という気持ちの芽生えや、楽しさを共有することで人と関わる楽しさ、心地よさを感じます。

家庭だったら・・

　子どもの何気ない仕草に優しく微笑むだけでも子どもは安心します。子どもの一つ一つの小さな喜びをあたたかく受け入れ、一緒に喜んであげてください。